

第5回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成30年11月12日（月） 16：30～18：30

場所：保健相談センター 講堂

日程

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. アドバイザーによるミニ講義
4. ワールドカフェ
5. 総評
6. 市民活動推進補助金の審査（※別にまとめる）
7. 閉 会

出席者（敬称略）

（委員）

渡部敏樹 遠藤恵子 松本幸永 徳尾勝 松本信子  
遠藤緑 門脇京子 糸川諒 足立勲

（アドバイザー）

毎熊 浩一

（高校生・大学生）

鳥取県立境高等学校 生徒10名

鳥取県立境港総合技術高等学校 生徒8名

島根大学法文学部 学生 12名（うち委員1名含む）

（事務局）

伊達憲太郎（総務部長） 沼倉加奈子（地域振興課長）

片岡直人（地域振興課企画係長） 渡部大樹（地域振興課企画係主事）

（傍聴者）

2名

欠席者（敬称略）

松田真二 渡邊冬樹 岩本和貴

<開会>

(事務局)

定刻となりましたので、ただ今から平成30年度第5回境港市みんなでまちづくり推進会議・高校生と大学生とのワークショップを開会いたします。本日はお忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は本日の進行いたします、地域振興課の片岡と申します。よろしくお願いいたします。

まずはスタッフを紹介いたします。総務部長の伊達、地域振興課長の沼倉、地域振興課の渡部です。

それでは、会長にご挨拶をいただきいただきます。松本会長よろしくお願いいたします。

<会長挨拶>

(会長)

皆さん、こんばんは。みんなでまちづくり推進会議会長の松本です。本日は、お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

私たち「みんなでまちづくり推進会議」では「U・Iターンをしたくなるまちづくり」を今期の取り組みテーマと協議を進めております。

本日は、ご案内のとおり、「U・Iターンをしたくなるまちづくり」について、お集まりの皆さんとワークショップをしたいと思っております。開催にあたりましては、アドバイザーの毎熊浩一先生には、ご助言を賜り誠にありがとうございました。また、快くご快諾いただいた各校の先生方や、ご参加いただいた生徒さん、学生さんに感謝申し上げます。

本日お越しいただいているメンバーは、私を含めたみんなでまちづくり推進委員9名、本推進会議のアドバイザーであります島根大学法文学部准教授の毎熊浩一先生、鳥取県立境高等学校の生徒さん10名、鳥取県立境港総合技術高等学校の生徒さん8名、そして、島根大学法文学部の学生さん12名（うち委員1名含む）であります。

どうか皆さん、お茶もお菓子もありますのでリラックスして、率直なご意見をお出しただけであればと思います。それでは、本日はよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続いて、アドバイザーの毎熊先生によるミニ講義です。毎熊先生、よろしくお願いいたします。

<アドバイザーによるミニ講義>

(アドバイザー)

ただ今、紹介にあずかりました島根大学法文学部准教授の毎熊と申します。ミニ講義ということですが、堅苦しいものではありません。ワークショップのきっかけになるようなことを話したいと思っております。

先ほど、会長からお話しがあったように、今日は「U・Iターンをしたくなるまちづくり」について皆さんから話を聞きたいという会なんですね。僕自身も安来市や雲南市

といった色々な地域でU・Iターンを進めて人口を増やして地域を元気にしようという仕事を結構やらせてもらっています。その関係もあってこの会議のお手伝いもさせていただいています。

ただ、違和感もあります。境港に限らず、人口は減ってきていて、人口を増やすのは大事なことですし、外から人は来てもらった方がいいし、特に皆さんのような若い方には外に出ていかない方がいい、進学や就職で出ていってもいつか戻ってきてほしいというのは当たり前だし、そのために解決策を市役所なんかは一生懸命やっているわけです。今日もその一環です。で、違和感というのは、この前、ある中学生からインタビューを受けて、聞かれたわけです。あなたはそうやって人口を増やすような仕事をしていますが、自分の子どもは松江に残ってほしいかと聞かれたのです。僕には子どもが3人います。女の子ばかり。一人は高校1年生で皆さんと一緒にです。で、僕は即答ですよ。「そんなこと思わん。どこ行こうが構わん」。だって、そうじゃないですか？（会場から「そうです」の声）。だって、自分の子どもが松江にいて幸せならいいですよ。でも、自分の子どもも将来があって、夢があって、それが叶うところに行ったらいいですよ。幸せを感じられるようなところに行ってほしいというのが親の気持ちですよ。僕は教育者でもあるので、学生に対してもそう思っていますし、一人一人の子どもに対してもそう思っています。だから、皆さん、境港に残らなくて良いですよ。皆さんが自分にとって豊かな人生を過ごせる場所を見つけてほしいと思っています。他人事ですが、そう思っています。ですので、ここに残ってほしいという大人自体が必要ないわけです。

（会場の高校生に）突然、誰かに告白されたら、付き合いましょうって言う？（「いやです」）。相手によるよね。地域だって一緒に、あなた一緒にここにいてって言われても、その地域に魅力がないといたくないよね。だから、僕らはそこが知りたいのです。僕らというのは、市役所や委員さんのことです。皆さんが本当にここに残りたいのか、皆さんにとって、本当にこの地域に魅力があるのか、付き合いたいかどうか、そういうところが知りたいです。今日は先生も来ておられますが、良い子にならなくて良いです。本当に本音で言ってください。「こんなとこ嫌だ」じゃあ、どこが嫌か教えてください。「私あんな街に憧れています」なんで憧れているか教えてください。良い子ぶらなくて良いです。特に今日は、大人の方いますし、大学生もいますので、ぜひ、本音を話していただけたらと思います。何言ってんだこの人はと市役所の方は焦っているかもしれませんが、そういう本音を引き出していきましょう。どうぞよろしくお願いします。

<ワールドカフェ>

（事務局）

ありがとうございました。続いて、本日の会の進め方について説明いたします。

まず、初めに受付で配布しました基礎資料について、触れたいと思います。毎熊先生のお話でもありましたが、この会は、人口減少が進む中で、「U・Iターンをしたくなるまちづくり」について検討していくにあたり、若い方、出ていく方・残る方あるかと思

ますが、若い方の率直な意見を聞きたいということで、開催したところです。

資料にあります。昭和60年に38,394人いた人口は、平成27年に34,934人、現在は、33,700人程度であり、30年で約5千人減少しているという状況です。また、このまま手を打たないでいると、推計として、平成も終わるところですが、平成52年には2万5千人に、平成72年には1万8千人になる可能性があると言われており、市としても色んな策を考えなければならないという現状です。

それから、人口の変化が地域にもたらす影響として、公共交通が縮小したり、空き家が増えたり、生活関連サービスが減ったりということがあり、結局は、生活の利便性や地域の魅力が低下して、そして、また人口減少が進むという負のスパイラルに陥ってしまうということになりますので、何等かの手を打つ必要があるということで、今回皆さんの意見をお聞きしたいというところです。

それで、今回のワークショップですが、「ワールドカフェ」という形式で行います。聞き馴染みがないかもしれませんが、お茶やお菓子を食べながら、カフェのような雰囲気でお話し合おうというものですから、どうか肩肘を張らず、リラックスして本音をお話ししていただき、お互いの思いや考えなどの相互理解を深めていただくことが本日の開催目的です。

今、縁あってお座りいただいている高校生、大学生、委員を1つのグループとします。テーブルが全部で6つあり、それぞれのテーブルでテーマが異なります。12分ごとにグループは時計回りに6つのテーブルをまわってください。各テーブルにはあらかじめ委員の皆さんをホストとして任命しています。ホストは進行役ですので、活発な意見の交換になるよう努めたり、意見を模造紙に書いていただくよう促してください。ですので、委員の方はそのまま移動せず一つのテーマについて、グループの進行を行うことになります。

委員の方々もホスト役を務めるのが初めてですので、大学生の皆さんには、グループのリーダーとして発言のきっかけを作っていただくとありがたいです。

それぞれのテーブルのテーマですが、このようになっております。

- ①「境港の好きなおところ・嫌いなおところは」
- ②「あなたは境港に残りたいか（いずれは戻りたいか）その理由は」
- ③「あなたの将来の夢は・就きたい職業は」
- ④「境港（出身地）について地域・学校・家庭で学んだことは」
- ⑤「境港に残る人・戻る人・住んでくれる人を増やすためのアイデアは」
- ⑥「大学生と話そう」

これらのテーマを高校生・大学生は全てお話しいただく形になります。その上で、⑥「大学生と話そう」については、委員の配置はありませんので、大学生にホスト役をお願いします。せっかく大学生に来てもらっているのですから、キャンパスライフのことなど、高校生は聞きたいことをざっくばらんに話してみてください。

6巡したところでホストの方は出た意見を発表していただきます。ワールドカフェにお

いては、意見をまとめる・結論を出すということはありません。出た意見を紹介してください。

そのあと毎熊先生に総評をいただき、最後にアンケートに答えていただき本日の会議は終了となります。終了時間は18時35分を予定しておりますので、ご協力お願いいたします。

(アドバイザー)

1点補足です。皆さん、テーブルについておられますが、そこにいるのは最初の12分だけです。12分経ったら、移動してくださいというので、別のテーブルに移ってください。6つあるので、6回話し合います。ですので、全部のテーブルに行ってください。で、今、高校生が各班何人かいますが、今の人たちと一緒に回る必要はありません。むしろバラバラになってください。色んな人と話せるというのがワールドカフェの醍醐味ですので、できるだけ友達と離れて、色んな人と話すようにしてください。よろしくお願いします。

(事務局)

それでは、早速、1巡目の話し合いをこの時計で16時57分までお願いします。終了2分前あたりのところで、一度お知らせします。それでは、始めてください。

～話しあい～

(事務局)

話し合いの途中かと思いますが、各グループは次のテーブルに移動してください。以前出た意見も参考に使ってもらいながら、話し合いを進めてください。よろしくお願いします。※これを6巡行った。

(事務局)

では、時間となりましたので、話し合いは以上とします。当初、各班から委員の方に発表をしてもらうこととしておりましたが、せっかくの機会ですので、高校生の皆さんお一人ずつ今日の感想をお聞きしたいと思います。大学生からも挙手があれば聞きたいと思います。

○高校生の感想(全員)

- ・色んな年代と方がいて、大学生の方は県外の人が多く、色んな場所の良いところ・悪いところや人それぞれの好みが出て、こういう意見もあるんだなと分かって、自分の中にも色んな意見を取り入れることができ良かったです。
- ・ここに来る前は、あまり良いところとか悪いところとか考えていなかったけど、話し合いをして、色んな人と話をできて、分かったこともあるので良かったです。

- ・色んな人の意見を聞けて、色んな視点で境港のことを知れて良かったです。
- ・今回、話途中で色んな課題が出てきたのですが、課題を実現するというのがとても難しいということが分かりました。
- ・いい感じな雰囲気でみんなと話せて嬉しかったし、境港についてたくさん知れて良かったです。
- ・もうちょっと堅苦しい感じかと思ったけど、和気あいあいと境港の良いところとか悪いところの本音を言えて良かったです。
- ・色んな人との話ができて、地元が好きな人も多かったので、自分は就職が県外なので…年とったら帰ってきます！
- ・お菓子があって、和やかな雰囲気のできたので、みんなのアイデアがすごい良くて、良い経験になりました。
- ・私がどんな意見を言っても、みなさん温かく答えてくれて、すごい…わー！ってなりました。
- ・会が始まる前は、どんな境港の良いところを言えばいいのかなぁと思っていたんですけど、話してみたら、高校生は自分と同じような不満があって、不満を言い合っただけでスッキリもしましたし、安心もして、有意義な時間だったなぁと思いました。
- ・年齢も全然違う色んな人たちの意見を取り込めたのはすごく良かったと思います。またこういう機会があれば参加したいと思います。境港の良いところにたくさん気づけたような気がします。あと、お菓子とジュースおいしかったです。
- ・私は大学生と話そうがスタートだったんですけど、境港以外のことも色々話せて楽しかったです。
- ・どこも似たような意見だなと思いました。
- ・地域のことを話す中で、自分のまちが良いなぁと感じるのは、まちが安定しているだと思いましたが、そういえば、他のまちに住んだことないなぁというのも同時に思って、1回外に出て、どこかのまちに住んでみて、それで、自分のまちがどんななのか分かると思うので、これから色んな経験を積んでいきたいと思いました。
- ・地域活性化とかの裏側にこういう会が開かれているのも知らなかったし、今日実際に意見を出して思ったんですけど、こういう出た意見を実行していくのも私たちだし、将来のことも含めて、やるべきことを具体的に言えて、楽しかったです。
- ・大人の人や大学生の人が自分が意見を言いやすいように話してくれて嬉しかったです。境港の好きなところ・悪いところとか、普段生活している中で考えたことなかったことを考えることができて良い経験になりました。
- ・色んな人と意見交換ができて、自分が思っていた意見とは違う意見がたくさんあってとても良い経験になりました。
- ・色んな人の意見を聞いて、米子にはない境港の魅力を知ることが出来て嬉しかったし、最後の「大学生と話そう」では大学の魅力とか面白さが聞けて、笑えました。

## ○大学生の感想

- ・ 大学に入って、人口減少や地域活性化に取り組んでいる市町村の事例について勉強してきましたが、実際に活性化させようと頑張っている方々や実際に住んでいる高校生の話を聞くことができ、とても良い勉強になりました。
- ・ 境港についてあまり知らなかったですけど、「境港は地域のコミュニティがあって、挨拶もしあったり、温かくて、住みやすくて好きだ」という意見があって、自分も地元は田舎で、今松江にいますが、隣の人とは挨拶もしないし、コミュニケーションを図れていないですし、今の時代、一つの家族だけでは過ごしにくいところがあると思おうので、温かいコミュニティがある境港の未来は明るんじゃないかと思いました。
- ・ 僕は大学生ですが、委員でもあったので、どちらの立場で話すか難しかったのです。それで、今回、地域の人をどうやって残すかというアイデアを考える班だったのですが、これもまた難しいテーマだったので、まずは、境港に住んでいたり、通ったりしている高校生のみんなから境港の良いところとか悪いところとか愚痴とかを話してもらったら、まあ愚痴が出てくること出てくること。でも、そういうことを言っている中で、「じゃあ、こうしたら良いんじゃないか」とうまく発展させてくれる子がほとんどで、また、良いところはこういうところがあるんだよっていうのも教えてあえたので、そういうことを繰り返していく中で、境港はどんどん良くなるんじゃないかと思いました。

## (事務局)

皆さん、無茶振りでしたが、ありがとうございました。それでは、毎熊先生から本日の総評をいただきたいと思います。毎熊先生お願いします。

## <総評>

### (アドバイザー)

高校生の皆さんから感想いただきましたが、今日の大事なポイントは言い尽くせてましたよね。まちづくりって基本的にこういう場が大事なんです。今日、皆さん気づいたかと思うんですけど、こうやって年齢を越えて、色んな立場の人がいて、色んな考えの人がいて、そういう人たちとまず話してみるということが非常に大事で、実はこういう場ってあんまりないんですよね。こうやって一生懸命、市役所の方が動いて、高校に協力していただいてっていうことをやらないとこういう場はできません。ですので、もっとこういう場がたくさんできるようなまちになってくると、そこが良いまちであるのは間違いありません。

高校生が言ってくれてましたけど、色んな視点でとか、色んな人と対話をしてとか、そういうことって大事で、とにかく自分の考えって一番良い考えだって思いがちですよ。で、誰か書いていたけど「田舎の良さがまだ分からない」と。多分、そうだと思います。

都会の方が便利だし、コンビニは近くにあった方がいいし。でも、それは自分の視点なんですよね。今日、僕は冒頭に自分のことを考えろと言いましたけど、それは当然貫いてほしいですけど、できれば、他の視点を尊重するというか、こういう考えもあるよね、という思いは持っていてほしいです。

一つ出た意見で、「遊ぶところがない」というのが結構ありました。これは大学生でやっても出てくる意見です。「ラウンドワンがほしい」とか。でも、遊ぶところって視点の持ち方次第でもあるんですよね。カラオケしたい、ボウリングしたいって考えていたら、ラウンドワンが必要ですけど、例えば、境港って、釣りを趣味にしたら、いっぱい遊ぶところあるじゃないですか。こんなとこ都会にはないですよ。ヨットなんてメッカなんですよね。もちろん、釣りやヨットを簡単に好きになるということはないかもしれませんが、視点を変えたら、遊ぶところはありますよ。

僕はこんな顔して最近バトミントンにハマっています。週に1回行けるかどうかですけど、まちの体育館が愛おしくてたまりません。でも、空いていなかったりするので、色んなところに行きます。一方で、僕は色んな地域にある公民館とか体育館とかここみみたいな施設とかを潰したほうがいいんじゃないかという仕事をしています。というのは、やっぱりお金はなくなっていくし、施設は老朽化していくんですよね。で、こういうの潰さないかんって言うんですけど、僕のバトミントンのためには必要なんですよ。これまで体育館なんて何とも思っていなかったんですよ。でも、視点を変えると、遊びとか楽しいことって出てくるんですよね。

だから、別の言葉で言うと、「ないものねだり」はあんまりしない方がいいです。当然、ほしいものは出てくるんですけど、視点を変えたら、楽しめるものって出てきます。そこは自分次第なんですよね。「ないや、ないや」って言っても楽しくないです。ですので、「ないものねだり」をしない、色んな視点を持っておく、というところを心掛けていただきたいと思います。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。続いて、会長からも一言お願いします。

(会長)

皆さん、たくさんの意見をいただきありがとうございます。あっという間に終わってしまったという感じで、話したりないという方もいるんじゃないかと思っております。ぜひ、また別の場で、境港でなくても良いので、地域のことについて話していただけたらと思います。

本日出た意見は、本推進会議の最終的な目標は市長への提言となっておりますので、提言に向けての重要な資料になりました。

また、今日のことをふり返ったり、別の人の意見を聞いたりして、「これはこうしたら良くなるんじゃないか」ということがありましたら、ぜひ事務局の方にご意見を寄せ



ていただければと思います。本日はありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、最後に事務局を代表しまして、総務部長の伊達から一言申し上げます。

(部長)

皆さま、大変長い時間ありがとうございました。すごく印象に残ったのが、管理栄養士になって、戻ってきて、家庭を作ると、きちんと自分の目標を持っていた子がいました。もちろん、その子だけが素晴らしいというわけではありませんが、頼もしい子がいるなど感心しました。

僕は大学は都会に出ていました。帰ってきて、たまたま市役所に就職したので、こちらにいますが、毎熊先生の話でもありましたが、僕は遊ぶところがないとは感じてありません。僕なんかはウインドサーフィンをしていて、いつも海で遊んでいます。やっぱり境港にも良いところがありますので、そういうところを見つけて、遊んでほしいと思います。

それから、都会には選択肢が多いので、都会で挑戦したら良いと思います。ですが、出身はどこ？と聞かれたときに、田舎だから恥ずかしいとか思わずに、思いっきり境港を自慢できる人になってほしいなと思います。良いところ・悪いところありますけど、そういうときは良いところばかり言ってもらって、境港を誇りに思って都会で暮らして行ってほしいなと思います。田舎者だからと思って引っ込み思案になることなく、堂々と都会で自分のやりたいことに挑戦してほしいと思います。そして、できたらやっぱり帰ってきてほしいなということをお願いして総評としたいと思います。ありがとうございました。

(事務局)

では、最後に、学生の皆さんはお手元のアンケートに記入をお願いします。出口に回収ボックスがありますので、そちらに提出してから、お帰りいただきますようお願いいたします。なお、委員の皆さんはこの後も会議がありますので、休憩していただいて19時前にはお戻りいただきますようお願いいたします。

以上で、第5回みんなでまちづくり推進会議・高校生と大学生とのワークショップを終了します。皆さん、長時間に渡り、ありがとうございました。